

株式会社4°Cホールディングス

YONDOSHI HOLDINGS INC.

2026 年 10 月 9 日

(証券コード:8008 東証プライム市場)

2027 年 2 月期第 2 四半期(中間期)決算概要

- ・ 連結業績は、5 期連続増収、営業利益および中間純利益は 2 期連続の増益。
- ・ ブランド事業は大幅増収増益。FDC プロダクツグループはチャネル戦略が奏功し、既存店が伸長。㈱羅針は品揃えの拡充により業績が大幅拡大。
- ・ アパレル事業は増収増益。アスティグループは円安等で苦戦も退職給付費用の減額処理が寄与。㈱アージュは新規出店に加え既存店も伸長。
- ・ 株主還元方針として、DOE(株主資本配当率)4%以上を目安に、安定的・継続的な配当の実施と自己株式の取得により、総還元性向の水準向上に努める。
- ・ 年間配当は 2 円増配の 85 円を予定。

株式会社4°Cホールディングス(本社:東京都品川区、代表取締役社長 増田英紀)はこの度、2027 年 2 月期中間期決算(2026 年 3 月 1 日から 2026 年 8 月 31 日まで)を発表いたしましたので、概略のご報告をいたします。

1)連結業績概況

(百万円、%)	2026 年 2 月期 中間期	2027 年 2 月期 中間期	前年同期比
売 上 高	32,474	39,442	+21.5%
営 業 利 益	1,124	2,709	+141.0%
経 常 利 益	1,310	2,871	+119.2%
親会社株主に帰属する 中 間 純 利 益	781	1,557	+99.2%

1 株当たり中間純利益 72 円 50 銭(前年同期 36 円 41 銭)

期中平均株式数(連結) 21,482,553 株

のれん償却前営業利益 2027 年 2 月期中間期 3,337 百万円(前年同期 1,748 百万円)

流通業界におきましては、個人消費に持ち直しの動きが見られたものの、物価の上昇が続くなか、消費者マインドの回復にはなお力強さを欠きました。富裕層を中心に高額品需要が堅調に推移する一方、節約・低価格志向も引き続き根強く、消費の二極化が進みました。

このような状況のなか、当中間期の売上高は 394 億 42 百万円(前年同期比 21.5%増)、営

本 社： 東京都品川区上大崎二丁目 19 番 10 号
設 立： 1950 年 5 月
資 本 金： 24 億 8,652 万円
事 業 内 容： 「4°C」を中心としたジュエリーSPA 及び高級ブランド時計のリユース販売を行うブランド事業、アパレル OEM・ODM 及びデイリーファッション「パレット」をチェーン展開するアパレル事業
ウェブ サイト： <https://yondoshi.co.jp/>
問 い 合 せ 先： (株)4°Cホールディングス 経営企画室
TEL 03-5719-3295 FAX 03-5719-4462
e-mail ir-yondoshi@yondoshi.co.jp

業利益 27 億 9 百万円(前年同期比 141.0%増)、経常利益 28 億 71 百万円(前年同期比 119.2%増)、親会社株主に帰属する中間純利益は 15 億 57 百万円(前年同期比 99.2%増)となりました。

■ブランド事業

売上高 265 億 79 百万円 (前年同期比 33.9%増)

営業利益 21 億 75 百万円 (前年同期比 143.4%増)

「4℃」ブランドを中心にジュエリーSPAを展開するエフ・ディ・シー・プロダクツグループは、MD 改革の深化やチャネル戦略が奏功し、既存店売上高が伸長いたしました。

また、高級ブランド時計のリユース販売を手がける(株)羅針では、引き続き品揃えの拡充に取り組んだ結果、売上高・営業利益ともに大幅に拡大いたしました。

■アパレル事業

売上高 128 億 63 百万円 (前年同期比 1.9%増)

営業利益 10 億 33 百万円 (前年同期比 30.6%増)

アスティグループにおいては、グローバルサプライチェーンの強化に取り組みました。円安や原価高騰の影響を受けましたが、退職給付制度の改定に伴う一時的な費用の減少もあり、営業利益が増加いたしました。

また、デイリーファッション「パレット」を展開する(株)アージュは、新規出店に加え、催事等を通じて既存店も伸長し、売上高が拡大いたしました。

2) 通期の連結業績見通し

(百万円、%)	2026 年 2 月期 (実績)	2027 年 2 月期 (前回発表)	2027 年 2 月期 (予想)	前回発表 予想比	前 期 比
売 上 高	69,962	75,000	77,000	+2.7%	+10.1%
営 業 利 益	2,802	4,300	4,300	-	+53.4%
経 常 利 益	3,164	4,600	4,600	-	+45.4%
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益	1,792	2,650	2,650	-	+47.9%

1株当たり予想当期純利益(通期) 123 円 36 銭

期中平均株式数(連結) 21,482,553 株

のれん償却前EPS 170 円 22 銭

当第2四半期累計期間の業績を踏まえ、2026 年 7 月 10 日に公表した通期の売上高予想を修正いたしました。一方、各段階利益については、経営環境の認識と今後の投資計画を勘案し、計画通りの推移を見込んでおります。

(注) 上記の予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の経済情勢等、様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

3) 当期の配当

年間配当金					
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
前 期 実 績	—	41.50	—	41.50	83.00
当 期	—	42.50			
当 期 (予 想)			—	42.50	85.00

当社グループは、株主の皆様への利益還元を重要な経営課題の一つと位置づけております。その基本方針として、安定的かつ継続的な配当の実施に加え、機動的な自己株式の取得を通じて、総還元性向の水準向上に努めてまいります。また、株主還元を測る重要な指標としてDOE 4%以上を目標に掲げ、将来的には1株当たり年間配当100円の実現を目指しています。

こうした方針のもと、2027年2月期の配当については、中間・期末ともに1株あたり42円50銭、年間では2円増配の85円を予定しております。

以上